

2020東京パラリンピック選手に対する 観光情報を通じた相互交流の実践 ーゴールボール選手に「音」で伝える 浜松市の魅力発信の試みー



*動画にご興味のある方は、上記のQRコードからアクセスしてください。

キーワード

2020東京パラリンピック、ダイバーシティ、視覚障がい、音、観光振興

○活動の目的

本学浜松キャンパスが立地している静岡県浜松市は、2020東京オリンピック、パラリンピックにおけるブラジル人出場選手の「ホストタウン」として内閣府より認定されている。同市は国内で最多9,000人を超える在日ブラジル人が居住しており、都市部や空港への交通利便性、在浜松ブラジル総領事館やブラジル銀行の立地、その他、交流イベントが盛んに行われている優位性を生かして、地域資源を活用した市民、そして本学学生との交流が期待されている。

本事業は、本学に来学したパラリンピックに出場する男子ゴールボールのブラジル選手団に対して、同市の観光資源に関する動画を製作し、紹介をする。ゴールボール選手は、視覚に障がいを持たれている方が大半であり、わかりやすく楽しめるようなオリジナルのコンテンツを製作する。

○活動内容

本事業では視覚障がい者の方でも楽しんでいただけるように、浜松市の地域資源や魅力を「音」で発信する動画を製作することにした。その目的を達成するために、以下の①及び②の項目にしたがって活動を進めた。

① 動画製作に関するアドバイスを得るためのインタビュー調査及び現地調査(音の収集)と動画製作:

視覚に障がいを持たれている方に対して、どのようなことに注意して動画を製作すれば良いのか、アドバイスを得るために、障がい者施設ウイズ半田の斯波様を訪問した。また、公益財団法人浜松・浜名湖ツーリズムビューロ様に、「音」の収集に協力して下さる浜松市の観光施設や飲食店などを紹介していただいた。ASMRマイクを用いて、グループ別にご協力いただいた企業や店舗を訪問し、音の収集を行った。その後、動画の長さ(5分)や音の特性を考慮して、右上の図のような構成で製作を行った。



▲インタビュー調査の様子
(浜松浜名湖ツーリズムビューロ)

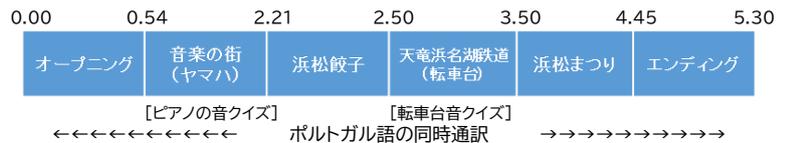


▲ASMRマイクによる音声収録
(ヤマハハイノバージョンロード)

*本事業の取り組みは、中日新聞2021年12月9日付朝刊に掲載された。

教員名	村瀬 慶紀
所属学部・学科	経営学部経営学科
職位	准教授

<動画コンテンツの流れ>



② パラリンピック選手とのリモート交流の開催:

ブラジル人選手が帰国後、2021年12月8日(水)にオンラインでブラジル選手との動画配信や交流をする機会ができた。はじめに、本来の目的である浜松市の魅力を音で紹介する動画を視聴していただく。次に、本学に来校した男子ゴールボール選手は、金メダルを獲得したことから、パラリンピックの大会の様子、日本の文化や生活習慣の紹介について、音に関するクイズを交えながら交流を深めた。最後に、高校時代に吹奏楽部に所属していた学生達がクラリネットとフルートで日本及び世界のヒットソングを披露し、交流会のフィナーレを演出した。



○今後の活動計画 ーレガシーを将来にー

今後は、浜松市内の視覚障がい者の方に対して、浜松市内の魅力を音で再発見していただくことも計画している。2022年2月にはウイズ半田の皆様動画を聴いていただき、意見交換を行った。



▲ウイズ半田との意見交換会

連携先:ブラジルパラリンピック委員会、浜松市スポーツ振興課
その他、ヤマハハイノバージョンロード、志ぶき(うなぎ)、天竜浜名湖鉄道(天浜線転車台)、浜松屋呑兵衛(浜松餃子)の方々に音声収録のご協力を頂いた。